令和６年度 発生予察情報	**特殊報第２号**	令和６年１０月３１日 埼玉県病害虫防除所 （TEL：048－539－0661）

チュウゴクアミガサハゴロモの発生について

県内の複数地域において、ハゴロモ類の発生と複数の農作物で産卵痕が確認された。加害虫について農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。

＊　特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生消長に特異な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど、生産現場への影響が懸念される場合に発表するものです。

１　害虫名　チュウゴクアミガサハゴロモ　*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

２　対象作物　チャ、ナシ、ブルーベリー、カンキツ、カキ、宿根アスター

３　発生確認の経緯及び発生状況

（１）令和６年９月から１０月にかけて、県内の経済栽培されている複数の農作物において、ハゴロモ類の成虫・幼虫と枝への産卵が確認された。一部の個体を採取し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。

（２）本種は中国を原産地としており、韓国、トルコ、フランス、ドイツおよびイタリアに外来種としての侵入が確認されている。国内では 2017 年に初確認されて以降、本州、九州及び四国の各地で発生が報告されている。また、神奈川県より本年８月に発表された病害虫発生予察特殊報においてブルーベリー枝への加害が報告されている。

４　本種の特徴及び生態

（１）成虫の翅端までの体長は 14～16㎜、前翅長 14 ㎜程度で、前翅は茶褐色から鉄さび色であり、前翅前縁中央部に三角形の白斑が存在する(写真１、２)。

（２）幼虫は白色で、腹部から白い糸状の蝋物質の毛束を広げる。また虫体の背面に小黒点を有し、翅芽は褐色である(写真３)。

（３）本種は広食性であり、カバノキ科、クワ科、ブナ科、マメ科、モクセイ科等の様々な植物を宿主として利用することが知られている。本県では、ツバキ科、バラ科、ツツジ科、カキノキ科等の樹種およびキク科の草本植物における寄生および産卵を確認している。

５　被害の特徴

（１）成虫および幼虫が枝を吸汁加害し、発生が多いと排泄物によるすす病が発生する。

（２）成虫は寄主植物の枝に、多数の卵を規則正しく配列された状態で産み付けるため、枝の組織を損傷し、植物体を衰弱させる（写真４）。

（３）産卵痕は白色で毛状の蝋物質で被覆される(写真５)。

6　防除対策

（1）　令和６年 10 月現在、対象作物において本虫を対象とした登録農薬はない。

（2）　産卵された枝を発見した場合は放置せず、切除して土中深くに埋めるか、焼却するなどして適切に処分する。

（3）　当年枝の上部に産卵される場合が多いため、樹種の特性に合わせて秋季の整枝や冬季の剪定を十分に励行し、耕種的防除につとめる。

（4）　本種は多くの植木類にも産卵することが確認されている。対象作物以外の樹木類で産卵を確認した場合は、防除対策（2）のとおり適切に処分する。

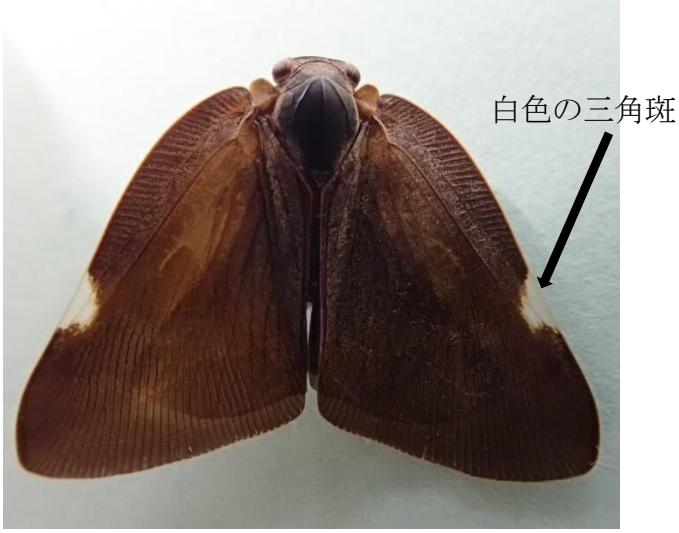

写真１　成虫

写真２　チャ枝上で産卵中の雌成虫

写真３　幼虫

写真４　枝内の卵（矢印）

写真５　カンキツにおける産卵跡